

## 二宮 淳 議員



### 一括質問方式

- ① 肱川
- ② 再生可能エネルギーを活用した地域おこし
- ③ 国道378号
- ④ 太陽光発電
- ⑤ インバウンド需要の活用
- ⑥ 教育問題

### 国道378号について

**問** 国道378号は、特に大型トラックなどの交通量が増えている。須沢と沖浦間では崖崩れにより交通規制されて、旧道を走行させる箇所があり、1年以上そのままになっている。急カーブのため交通に支障が出ており、早急な復旧が必要と思うが、市として県に働きかけは

しているのか。

**答** 須沢と沖浦間で交通規制を行っている箇所については、平成30年9月に吹きつけコンクリートが損傷するなど法面の不安定化が見受けられたため、海側の旧道を迂回していただいています。市としては県に早期復旧をお願いしているほか、国道378号整備促進協議会では、以前より沖浦から出海地区にかけての早期防災対策、冬期の風浪対策による安全対策の要望を行っているところであります。

なお、当地区の法面対策工事については、法面の安定化を図るためのアンカー工事を行っており、令和2年度中の完成を目指し、工事の進捗に努めていると伺っています。

### 太陽光発電について

**問** 2009年11月から開始された太陽光発電の固定電力買い取り制度から10年が経過し、売電していた世帯の契約が2019年11月から順次終了する。

東京都では独自の支援を始める方針があり、また、愛媛県の各自治体

で実施されている補助金制度は、

2019年度では蓄電池の補助金として八幡浜市、伊方町、東温市、四国中央市などが出すそうである。

本市でも、設置のときだけ補助金を出すのではなく固定電力買い取り制度が終了するときにも何らかの補助ができないか。そうすることで、再生可能エネルギー社会の推進、地産地消というすばらしい地域を構築できると思うが、その考えをお聞きする。

**答** 市としての固定価格買い取り終了後の支援策については考えていませんが、太陽光発電による再生エネルギーを有効に活用するための蓄電池の導入促進は必要ではないかと考えていますので、今後、国や県などの補助金制度を活用した蓄電池の導入促進も含め、現在、施工中の住宅用太陽光発電システム設置費補助金の見直し検討を行っていきたいと考えています。

### 教育問題について

**問** ALT（外国人指導助手）は、英語の授業内で担任や担当教員

とともに英語を教えている。子供たちはALTと過ごすことで生きた英語を学べ、異文化や異言語に触れることが可能である。しかし、ALTの来校回数や質の問題など、これから向き合っていかなければならない課題もある。子供たちの英語に対する学びの意欲を引き出すためにもALTの存在は欠かせないものである。

子供たちによりよい英語学習の場を提供していけるように、その人数を増やす考えはないのか。

**答** 本市では、小学校高学年における外国語教育の強化並びに中学年の外国語活動開始に伴い教育の質の向上のため、平成30年度にALTを4名から6名に増員しました。これにより、学校への派遣回数を約1.5倍に増やしています。国際感覚豊かな人材を育成する上で、ALTの存在は重要であると認識しています。小・中学校全学級数に対するALTの人数は、県内で平均的なところでもあり、しばらくの間、今の6人体制で行っていきたいと考えています。